

- 問1 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？
- 問2 稲作が普及して富や権力に差が生まれた弥生時代、地域をまとめる存在として現れたまとまりを何という？
- 問3 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？
- 問4 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？
- 問5 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？
- 問6 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？
- 問7 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？
- 問8 1世紀、後漢の時代に倭の奴国の王が使節を送った際に、その権威を認めて印を授けた皇帝を何という？
- 問9 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？
- 問10 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣鐘状の青銅器を何という？
- 問11 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？
- 問12 3世紀頃、邪馬台国を治め、中国の魏に使者を送ったとされる女王は誰？
- 問13 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王が贈られたことを示す重要な遺物を何という？
- 問14 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？
- 問15 弥生土器の名称の由来となった、最初に見つかった場所は現在の何という地名？
- 問16 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？
- 問17 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？
- 問18 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？
- 問19 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？
- 問20 弥生時代に大陸から伝わり、実用品ではなく主に祭祀の道具として使われた青銅器のうち、釣鐘のような形をしたものを何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 稲作	稲作が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。木製の農具や鉄製の道具が使われるようになり、生産効率が飛躍的に高まりました。
問2	答え クニ	この争いに勝った有力者が周辺の集落を統合し、「クニ」と呼ばれる政治的なまとまりを作りました。クニには王が現れ、指導者として集落を管理しました。中国の歴史書『漢書』や『後漢書』には、日本に多くのクニが存在していたことが記されています。
問3	答え 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問4	答え 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問5	答え 光武帝	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である光武帝は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。これは当時の日本が中国の王朝から「倭の国の一つ」として公的に認められた歴史的な出来事です。
問6	答え 歴史書	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。これらの書物には、日本（倭）の地理や、百余りの小国が乱立していた様子、金印の授与、卑弥呼が統治した邪馬台国の様子などが詳細に記述されています。
問7	答え ネズミ返し	高床倉庫は、湿気やネズミの被害を防ぐために床を高くした建築物です。柱の途中に板状の出っ張り（ネズミ返し）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。
問8	答え 光武帝	『後漢書』東夷伝によれば、57年に倭の奴国の使者が後漢の光武帝に謁見し、朝貢しました。その際、光武帝は奴国の王に対し「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けたとされています。
問9	答え 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問10	答え 銅鐸	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。表面には稲作の様子や動物、自然などの絵が描かれることもあり、当時の人々の信仰心や芸術性を伝えています。
問11	答え 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭祀の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問12	答え 卑弥呼	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。3世紀、魏に使者を派遣して高い政治的地位を認められ、有力な指導者として倭をまとめました。これは中国の歴史書『魏志倭人伝』に詳しく記されています。
問13	答え 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。
問14	答え 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦いの激化に寄与しました。
問15	答え 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。
問16	答え 後漢	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。当時の皇帝である光武帝は、その使いに対して「漢委奴国王」と刻まれた金印を贈りました。
問17	答え 鉄器	鉄器は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。特に鍬や鋤などの農具が鉄製になったことで、森林の開墾や水田の整備が非常に効率化され、米の収穫量が飛躍的に増加しました。
問18	答え ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問19	答え 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問20	答え 銅鐸	銅鐸は主に近畿地方を中心に多く出土しており、祭祀の道具として用いられました。当初は小型でしたが、時代が進むにつれて大型化し、表面には線刻で絵が描かれるようになるなど、集落の祭りに欠かせないシンボルとなりました。